



☆ 認知症になった方への関わり方・・・着替えが難しくなってきた

気持ちよい生活をする上で、清潔できれいに身なりを整えることはとても大切なことです。しかし、認知症になってくると、着替えることが億劫になってきたり、着替える手順を思い出せなくなったりしてきます。

関わる人は、手助けをしながらも、出来るだけご本人自身で着替えが出来るような工夫をしましょう。①着る順番に一枚ずつ重ねる。②指先に力の必要なボタンやファスナー、ホックなどのついたものは、マジックテープやゴムに取り替える。③ズボンは前後がわかりやすいようにたたむか、しるしをつける。④好みの色や柄などに気を配る。⑤急がせない・・・着替えが終わったら、髪も整え、「よく似合いますね」「さっぱりして、気持ちよくなりましたね」などと、着替えが出来たことを「よかった」とご本人が思えるような声かけを忘れないようにしましょう。(松尾 記)

☆ 失語症の方々と

ある日突然発症して、言いたいことがうまく話せなくなったり、人の言っていることがよく理解できなかつたり、文字を読んだり書いたりすることが難しくなるのが、失語症の主な症状です。

失語症は脳梗塞や脳出血、外傷等で脳の言語を司る部分が損傷されておこります。右片麻痺を併発することが多く、女性より男性に多く見られます。

家族も本人も障害を背負って生きていく大きな困難を抱えることになります。コミュニケーションの障害のために人とうまく通じ合うことが難しくなることから、仕事を辞めざるを得なくなったり、友人と疎遠になってしまうこともあります。

でも、周囲の人が上手に付き合うコツを知っていると、失語症からくる障害を軽くすることは出来ます。たとえば「ゆっくり・はっきり・短い言葉で」話す。「文字は漢字を交えて書いて」見せる。「はい・いいえ」で答えられる質問をする。「絵や地図、カレンダーなど、言葉以外の材料」を使ってみるなどです。

私が「言語訓練グループ」のボランティアを始めて9ヶ月過ぎました。皆さん同じ障害を抱えていることもあるのでしょうか、底いあう優しさと笑顔に楽しい時間を過ごしています。

(上野 記)

☆ サインを見逃さずに！

認知症を発症した方に対する、家族の対応に関する適切なやり取りに付いては、現在多くの書籍も発行されていますが、発症以前(医者によって認知症と診断される前の段階)の多くの事例の中で「歳だからしょうがない」といった対応で見逃され、初期の対応が遅れたため症状が進行してしまう例は枚挙にいとまがありません。「電気の消し忘れ」「水の止め忘れ」「トイレの流し忘れ」は特に多い例です。そのことを指摘した時に、「忘れた、ごめんなさい」といった素直な対応では無く、本人がそれらしい言い訳「今止めようと思ってたのよ」や「止めたはずだよ!」「今、手(皿)を洗ったばかりだったの」といった対応をする場合があります。

辻褄を合わせることが比較的多いといった、認知症の患者の持つ特徴を初期段階の方も有している可能性もあるので、ご本人の日頃の言動を加味しながらの冷静な判断が必要となります。

☆ 助成事業決定の報告

地域福祉課による「福祉のまちづくりパートナーシップ」区民活動支援事業公開審査会(6/14)の結果、『私の忘れもの』の発行を含む「白い箱の会」の活動は今年度も区からの助成を受けることが決まりました。皆様への感謝と共にご報告いたします。